

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1870400247		
法人名	有限会社ケアライフ光		
事業所名	グループホーム孫子老		
所在地	福井県小浜市遠敷57-13		
自己評価作成日	平成22年11月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kouhyo-fukui.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1870400247&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成22年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康管理に力を入れ、皆さんが生き生きと暮らせるように、お菓子作り等を行い、おやつに食べてもらって満足してもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、小浜市中心部を走る国道27号線から南に下った集落の中に立地しており、周囲は田・畑・公園など、自然環境が豊かである。職員は、入居者の第二の古里を目指し日々のケアに取り組んでいるが、特に入居者の健康管理に注意しており、早期発見し対応していることがうかがえた。また、入居者の外出支援だけでなく、運転できない家族がホームを訪問する際の送迎など、家族に対する支援も行っている。入居者とのおやつづくりは、自分たちが食べるものだけでなく、ふれあいサロンの参加者や病院の先生などの分も作って持参している。ふれあいサロンの参加者や病院の先生などからも喜ばれるっており、入居者の喜び・生きがい・自立支援に繋がっている。近隣の方から野菜が差し入れられるなど、地域との良い関係が構築されつつあり、今後さらにその輪が広がっていくことを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	第二の古里になるように、いつも笑顔で生きがいのある暮らしが送れるように手伝いする。	毎朝の朝礼で理念を唱和している。職員は、入居者の子や孫になったつもりで、真心を持ち入居者の立場に立った介護の実践に取り組んでいる。	家族やホームを訪れる方にも理念が浸透されるような取り組みを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	希望される方は、ふれあいサロンに参加されている。	入居者と一緒に町内の祭りに参加している。また、ふれあいサロンにおやつを作って持参し参加者から喜ばれている。今後は、地域の方を対象にした認知症に関する勉強会や健康教室などを行っていききたいと考えている。	認知症に関する勉強会や健康教室などを開催し地域住民との交流をさらに深めるとともに、地域の介護拠点となるホームづくりを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今は行っていないが今後、民生委員にお願いして、ふれあいサロンの場を借りて認知症の勉強会をしたいと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話を職員に伝え、サービスの向上に努めている。	入居者代表・家族代表・老人会長・民生委員・市職員などの参加を得ている。ホームの運営状況の他、運営に関する相談や行事に関する情報交換を行い、積極的にホーム運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談したい事例が出た場合、介護長寿課へ相談に行っている。	運営推進会議に市の職員の参加を得るとともに、ホーム運営に関する相談があれば市の窓口に行き相談できる関係が構築できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1回/M身体拘束のCDを職員に聞いてもらって一同理解して取り組んでいる。	全職員が身体拘束しないケアを理解するよう毎月内部研修を実施している。玄関や共有空間などは鍵をかけず、外出しようとした際には職員が付き添って外出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1回/M虐待防止のCDを職員間で聞いて虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の場で権利擁護に関する制度を学んだが、現在必要とする人がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に納得いくように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際、利用者代表・家族代表に出席してもらい意見をもらっている。	入居者の意見は普段の言動の中から汲み取るように心がけている。また、面会時などに家族から直接意見を聴くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特に機会は設けていないが、意見や提案があれば、良い事と思えば取り入れている。	職員の意見や提案を聴く機会は特に設けていないが、何でも話せる関係はできており、意見や要望を聴き反映させることもある。解決が難しいことも多いが、管理者は職員の意見を汲み、解決に向け努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を見て給与upしたり、病後の人にはその人の希望を聞き入れ時間を調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修に参加したり、近くで行われる認知症講演会に参加するように指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は大切だと思っているが、なかなか実行できなくて悩んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に十分話を聞かせてもらい安心して生活してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ゆっくりと話を聞かせてもらい緊急時の対応・重度化した場合等の対応についても説明して安心して生活してもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム内で行う関わり方の説明はしているが、他のサービスを利用するケースはない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	作業をする時にでも年の功だなあと教わる事がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出・外泊に協力してもらいある利用者の家族が面会に来られた際、職員と一緒に作ったお菓子を召し上がってもらい感激してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	妻が入院中の方もおられ時々面会にお連れして喜んでもらっている。	親族や知人などのホームでの宿泊を受け入れるなど、入居者の馴染みの方との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同志で洗濯物をたたんでもらったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の病院に移られた方も時々面会に行かせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎朝「今日はどのように過ごしたいですか」と担当者に聞いてもらい希望された事は実行してもらっている。	職員が普段の関わりの中で入居者から具体的に聴いたり、直接職員に話しにくい方には家族の面会時に思いや意向を家族に聴いてもらうなど、さまざまな機会で本人の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族から今までの生活歴や暮らし方を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的な2回/1日のバイタルチェックの他、必要時にもチェックし異常の早期発見に努め、その人に合った脳トレーニング等行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員間で話し合っってプランに生かしている。	本人・家族の思い・意向や職員の気づきなどを踏まえ、介護計画を作成している。本人の状況に合わせて、随時計画を見直している。	本人や家族と話し合った結果やモニタリングを記録し職員間で共有するとともに、介護計画の見直しを計画した期日に沿って行われるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別の日誌に記録し昼休みや申し送り時に情報を共有して介護に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	無理せずにその人その人に合ったサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	人中へ出るのが嫌な人もおられるので、希望があればふれあいサロンに参加してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医の元へ診察にお連れしている。	今までのかかりつけ医での受診としており、受診時は職員が同行している。緊急時など、往診の際は協力医での受診となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間看護師在住であり、ヘルパーと看護師の連絡が切りに取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、及び1週間後、退院前に主治医と面談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居当初に重度化した場合の話を見せて頂き、当ホームでの生活が困難となった際には、適した病院の相談員に連絡を取っている。	入居時に重度化や終末期におけるホームとしてできる支援について説明し、入居者の状況に応じて、家族と今後の支援に向けた話し合いを行っている。また、最終的にはかかりつけ医や家族との連携を図り、支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難訓練を行い近所の御夫婦にも参加してもらっている。	火災を想定した避難訓練を消防署の協力の下、年2回実施している。また、地域の消防団や近所の方にも災害時の協力をお願いしている。	緊急時における緊急連絡体制表(地域の消防団などを含む)を作成し、万が一の際にすぐに対応できるような備えを期待したい。また、夜間時など職員が少ない時間帯は、職員だけの対応が困難なケースもあるので、できるだけ多くの地域の方の協力が得られるような呼びかけも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が本人に伝えるより、娘さんに言ってもらった方がよさそうな方には、娘さんを通じてお話してもらったりしている。	何かを行うときには、入居者の意向を聴き、個々の人格を尊重した支援に取り組んでいる。	ミーティングなどの機会を利用し、入居者に対する日ごろ関わりなどの気づきを話しあうなど、改めて個々の誇りやプライバシーの確保について確認しあうことを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝、担当の職員が何をしたいのか希望を聞き取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に無理のかからないように自分のペースで過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方には特に、美容院でカットしてもらったり、パーマ等も希望を聞いているが、ここで皆と一緒によいと言われる。化粧をされている方には、よいことですねと声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	みそ汁を作ったり、食器拭き等職員と一緒にしてもらっている。	食事の準備・片付け・おやつづくりなど、本人ができることを職員と一緒に楽しみながら行っている。職員も一緒に同じテーブルにつき、食事を楽しんでいる様子がうかがえた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	在宅でおにぎりを食べていた方には、おにぎりを提供したり、食事量も許される範囲内で希望をかなえたり、お茶を飲まれない方には、スポーツ飲料等で飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食前と毎食後に職員がそばについて、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、ポータブル誘導を行い、紙パンツ使用し夜間でも、居室から出てこられた時には、ポータブルトイレで排尿してもらっている。	入居者個々の排泄パターンを把握し、職員がさりげなく誘導している。紙パンツを使用していた方が、トイレへ誘導したことでトイレでの排泄が可能になるなど、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に摂ってもらったり、砂糖入りの黄な粉湯を飲用してもらったり、廊下を歩行運動してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は、希望を聞いて好きな時間にしてもらっている。	入居者の希望を聴き、午前・午後希望の時間帯に入浴してもらっている。基本的には1対1での介助しているが、入浴困難な重度の方には2人で介助するなど、安心して入浴できるような支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の状態を把握して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が職員全員に薬に関する説明を行い、誤薬や飲み忘れがないように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った事をして頂いたり、レクリエーションを通じて、皆さんの楽しい笑顔が見られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行きたいと希望があれば一緒に出かけ、大好きな歌手のコンサートと一緒に出かけたりしている。	日常的には近隣の散歩に出かけたり、落語・映画・歌手のコンサートやイベントなど行きたい所を入居者に聴き、できる限り同行するようにしている。また、自宅へ帰宅したい入居者への送迎などの支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族との話し合いで希望通りにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意見を聞き、実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気や室温に気を付け、ゆったり過ごせるようになっている。	リビングは台所と対面式になっているため、料理をしながらお互いに会話することができる。また、ホームで飼っている猫が入居者のそばを歩き来するなど、家庭的な雰囲気であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間でTVを見たり、気の合う人と洗濯物をたたんだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しなじみの物を持ってきて頂いたり、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の窓からは外の景色が一望でき明るい。テレビ・本棚・衣装箱などの馴染みの物や装飾物が持ち込まれるなど、個々に特徴的な居室となっており、居心地良く生活している様子がうかがえた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に応じて取り組んでいる。		